



株式会社フコク(東証プライム:5185)
2024年5月22日

決算説明会

2024年3月期



Copyright © Fukoku Co., Ltd.
All Rights Reserved.

本日は、お忙しい中、株式会社フコクの2024年3月期決算説明会をご視聴いただき、誠にありがとうございます。
本日の説明をさせていただきます株式会社フコク社長の大城でございます。

最初にフコク製品をご愛顧戴いている全てのお客様、株主の皆様、私達の企業活動を支えていただいている全ての関係者の皆様方に深く御礼申し上げます。
説明の順番ですが、資料に基づき説明した後、皆様からのご質問にお答えいたします。
ご質問はチャットにて受け付けますので、ご質問のある方は画面右側より入力をお願いします。

それでは、始めさせていただきます。

Agenda

1. 決算のポイント
2. 2024年3月期実績
3. 2025年3月期業績予想
4. セグメント別・地域別の状況
5. 株主還元
6. 中期経営計画の進捗

本日は、御覧の通り、決算のポイントを簡単にご説明した後、2024年3月期の通期実績、2025年3月期の通期業績予想、セグメント・地域別の状況、株主還元、中期経営計画の進捗状況の順番にてご説明させていただきます。

1. 決算のポイント



1. 決算のポイント

2024年3月期実績

中国における景気低迷、資源価格高騰による原材料費の高止まり等の影響を受けたが、自動車メーカーの生産調整による影響の緩和、円安の影響による円換算時の売上増、原材料費や燃料費の上昇の影響を合理化や売価反映等により吸収し **増収・増益**

2025年3月期予想

不安定な海外情勢の継続、世界的な為替の変動、資源価格高騰等による物価上昇の傾向が続くことを想定
2024年度は「新中期経営計画2026」の初年度であり、目標を達成すべく、自動車メーカーの受注回復、拡販努力、生産工程の合理化、変動対応等の更なる採算改善努力の継続により収益力の最大化を図り、**売上高、利益ともに過去最高を目指す**

配当

2024年3月期の期末配当金は32.5円に**増配(+5円)** 中間配当金27.5円と合わせた年間配当金は60円
2025年3月期の年間配当金予想は75円 (**前年比+15円**) を計画

はじめに決算のポイントですが、2024年3月期は、中国における景気低迷、資源価格高騰による原材料費の高止まり等の影響を受けましたが、自動車メーカーの生産調整による影響の緩和、円安の影響による円換算時の売上増、原材料費や燃料費の上昇の影響を合理化や売価反映等により吸収し増収増益となりました。

これらを受けまして、2025年3月期の業績予想は、不安定な海外情勢の継続、世界的な為替の変動、資源価格高騰等による物価上昇の傾向が続くものと予想されますが、2024年度は「新中期経営計画2026」の初年度であり、目標を達成すべく、自動車メーカーの受注回復、拡販努力、生産工程の合理化、変動対応等の更なる採算改善努力の継続により収益力の最大化を図り、売上高、利益ともに過去最高を目指します。

当期の年間配当金は、期末配当金を直近の配当予想である1株当たり27円50銭から5円増配の32円50銭、中間配当金27円50銭と合わせた年間配当金は60円とさせていただきました。

なお、2025年3月期の予想につきましては、連結配当性向30%方針に従いまして、前年差15円増の1株当たり75円を計画しております。

2. 2024年3月期実績



2. 2024年3月期実績

業績概要（連結）

（単位：百万円）

	2023年 3月期	2024年 3月期		
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	82,318	88,847	+6,529	+7.9%
営業利益 (売上高対営業利益率)	2,010 (2.4%)	3,646 (4.1%)	+1,636 (+1.7pp)	+81.4%
経常利益 (売上高対経常利益率)	3,139 (3.8%)	4,094 (4.6%)	+955 (+0.8pp)	+30.4%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,135 (2.5%)	3,050 (3.4%)	+915 (+0.9pp)	+42.9%

※pp=パーセンテージポイント

原材料費高騰等の影響を、合理化・売価反映等で吸収し増収増益

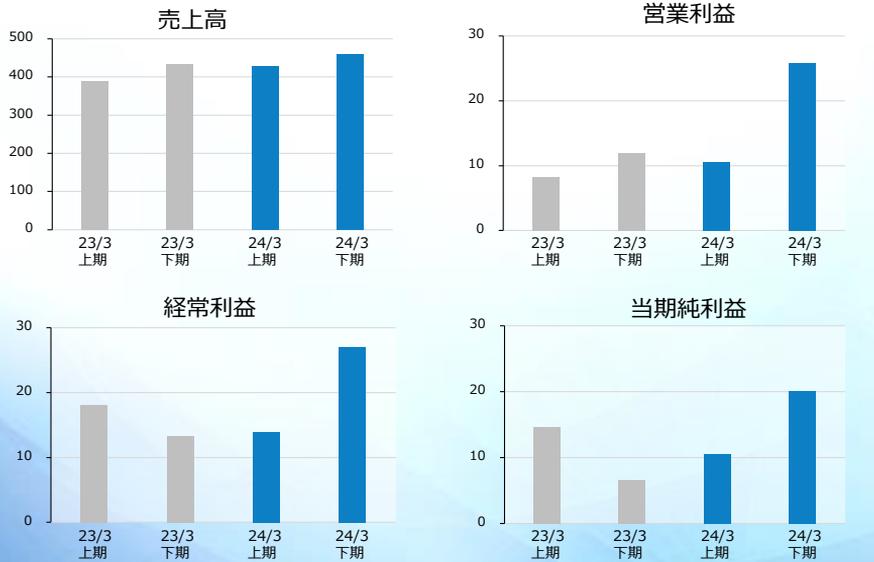
2024年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

2024年3月期の実績はご覧の通り、売上高は、前年同期比65億円増の888億円と過去最高の売上高となりました。

また、営業利益、経常利益、当期純利益の各利益段階におきましても、原材料費等の上昇分を合理化や売価反映等で吸収し、増益を達成しております。

2. 2024年3月期実績

実績推移（連結・半期）



2024年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、過去2年間の上期・下期の実績を示したものです。売上高は、2024年3月期は、中国における景気低迷等の影響を受けた一方で、日本やアセアン・インドの売上が伸長したことで増収となりました。

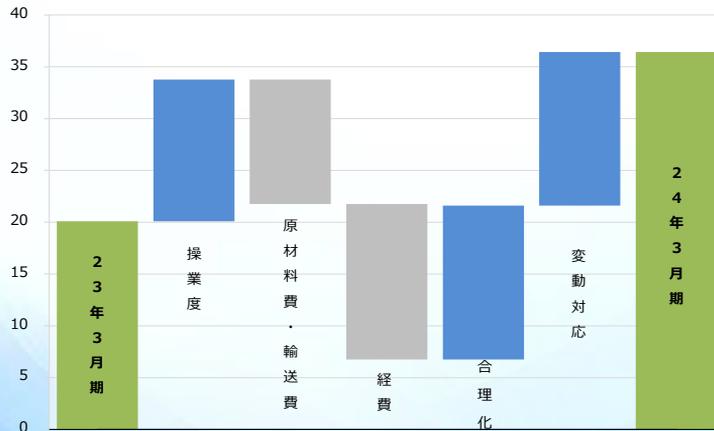
また、営業利益は、2023年3月期下期に注力しました売価反映が進んだこと、2024年3月期は、原材料費や燃料費の上昇の影響や、CASE対応向け技術開発費用やDX投資がかさんだものの、合理化や売価反映により増益となりました。

経常利益・当期純利益につきましては、2023年3月期上期にそれぞれ一過性の利益を計上したことで利益が伸びていますが、その影響を除くと期を追うごとに利益は伸長しております。

2. 2024年3月期実績

差異要因_連結営業利益（前年比）

（単位：億円）



2024年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、連結営業利益の対前年比の増減を要因別に示したものです。

マイナス要因としては、資源価格高騰による物価上昇の影響を受けて、原材料費・輸送費、経費等でマイナス27億円となりました。経費の内訳といたしましては、光熱費の増加、戦略的なベースアップによる労務費の増加、生産性向上と業務効率化を目的としたDX投資等の諸経費の増加の合計15億円となっております。

一方プラス要因としては、操業度による増益、合理化、変動対応で43億円を挽回し、前年度から16億円の増益を達成しております。

2. 2024年3月期実績

財政状態、キャッシュ・フロー概要（連結）

（単位：百万円）

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前年増減額
現金及び預金	9,972	12,011	2,039
受取債権	19,731	20,591	860
棚卸資産	11,054	11,427	373
その他流動資産	1,770	1,686	△ 83
流動資産計	42,528	45,718	3,189
有形固定資産	25,896	26,695	799
その他固定資産	3,105	3,619	514
固定資産計	29,001	30,315	1,313
資産計	71,530	76,033	4,503
借入金	12,979	11,525	△ 1,453
支払債務	11,342	12,330	987
その他流動固定負債	9,255	10,167	911
負債計	33,577	34,023	445
株主資本計	32,534	34,780	2,245
非支配持分	2,333	2,472	139
その他	3,084	4,757	1,672
純資産計	37,952	42,010	4,057
負債・純資産計	71,530	76,033	4,503

- 円安下での為替換算の影響により現預金が増加
- 当社決算日が金融機関休日のため、未決済の支払債務が含まれており、現預金が一時的に増加

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績
税前利益	3,511	4,093
減価償却費	4,471	4,653
売上債権の増(△)減(+)	△ 1,572	△ 122
棚卸資産の増(△)減(+)	△ 876	122
仕入債務の増(+)-減(△)	971	213
その他	△ 2,990	△ 118
営業活動によるC F	3,515	8,843
有形固定資産の取得	△ 4,103	△ 4,027
その他	114	△ 438
投資活動によるC F	△ 3,988	△ 4,466
借入れによる収入	4,104	2,055
借入金の返済による支出	△ 2,527	△ 3,934
その他	△ 823	△ 902
財務活動によるC F	753	△ 2,781
フリー・キャッシュ・フロー	△ 473	4,377

- 本業の回復と売上債権の回収によりフリー・キャッシュ・フローも改善

2024年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

財務体質の状況を、バランスシートとキャッシュフローで見ると、ご覧の通りとなります。

バランスシートは、円安下で総資産が増加していますが、自己資本比率やROEの指標は前年より良化しております。

3. 2025年3月期業績予想



続きましてここからは、2025年3月期の業績予想についてご説明いたします。

3. 2025年3月期業績予想

業績予想（連結）

（単位：百万円）

	2024年 3月期	2025年 3月期	増減額	増減率
	実績	予想		
売上高	88,847	93,000	+4,153	+4.7%
営業利益 (売上高対営業利益率)	3,646 (4.1%)	4,800 (5.2%)	+1,154 (+1.1pp)	+31.6%
経常利益 (売上高対経常利益率)	4,094 (4.6%)	4,800 (5.2%)	+706 (+0.6pp)	+17.2%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	3,050 (3.4%)	3,750 (4.0%)	+700 (+0.6pp)	+22.9%

※pp=パーセンテージポイント

受注好調、生産工程の合理化や原材料価格等の変動対応により、増収増益を計画

2024年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

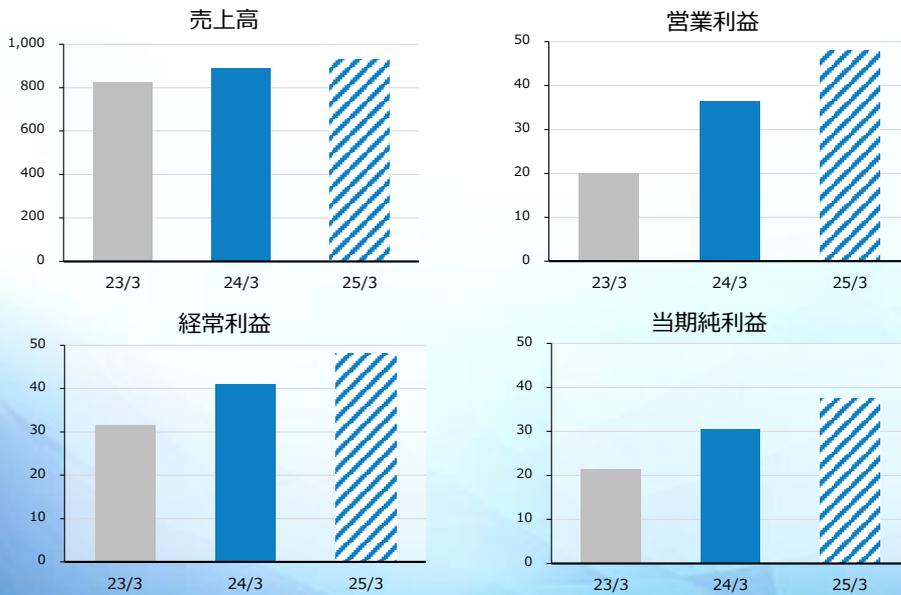
当期の業績予想は、売上高930億円、営業利益48億円、経常利益48億円、当期純利益37億5千万円を計画しております。

外部環境の不透明感が依然として続くものと予想されますが、自動車メーカーの受注の回復や拡販努力、合理化、原材料価格等の変動対応活動をやりきることで増収増益を実現してまいります。

3. 2025年3月期業績予想

予想推移 (連結)

(単位: 億円)



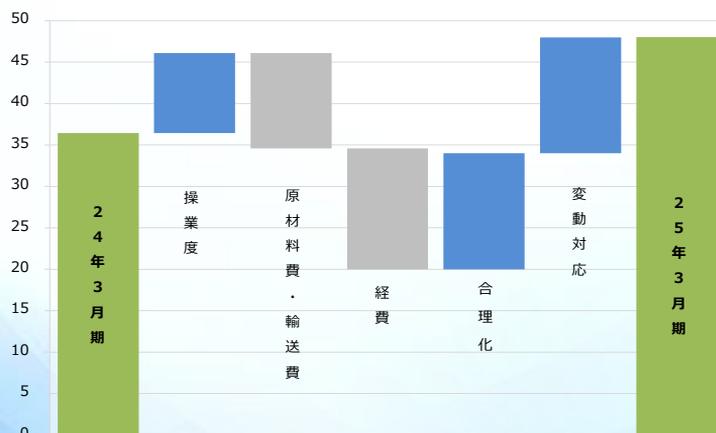
2024年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、過去3年間の業績推移を表したものです。
ご覧の通り、2025年3月期も増収増益基調を継続してまいります。

3. 2025年3月期業績予想

差異要因_連結営業利益（前年比）

（単位：億円）



2024年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、連結営業利益の対前年比の増減を要因別に示したものです。

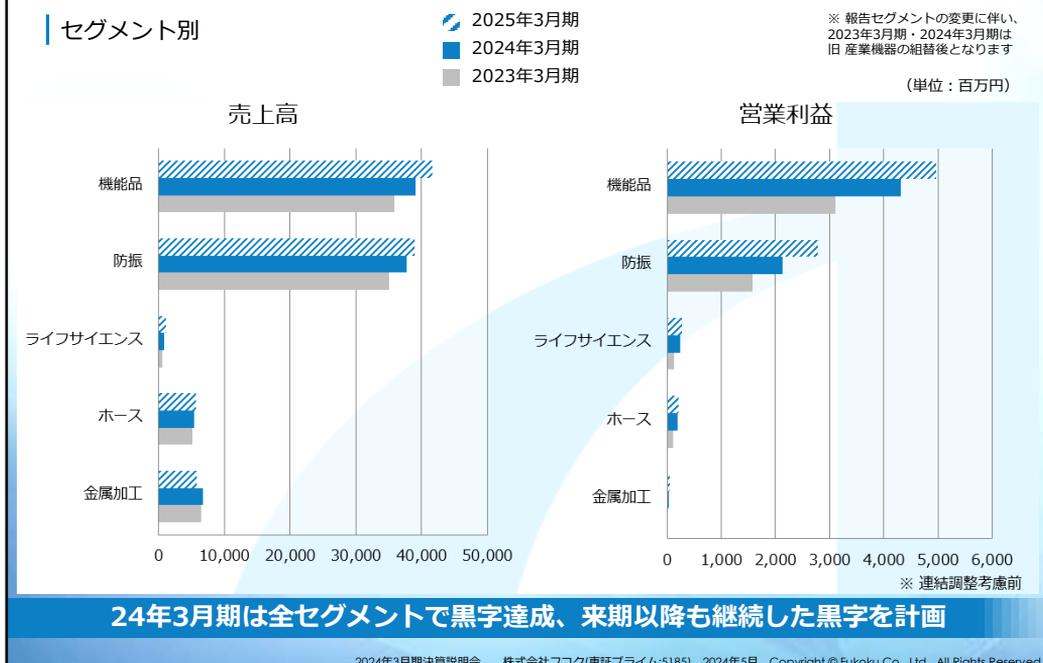
2025年3月期は、インダストリアル関連や、CASE関連について新規・拡販を実施、また、労務費上昇分の売価反映に取り組むことで、操業度益を留保した営業利益増を計画しております。

4. セグメント別・地域別の状況



次に、セグメント別・地域別の状況について、ご説明いたします。

4. セグメント別・地域別の状況



まず、セグメント別の状況です。

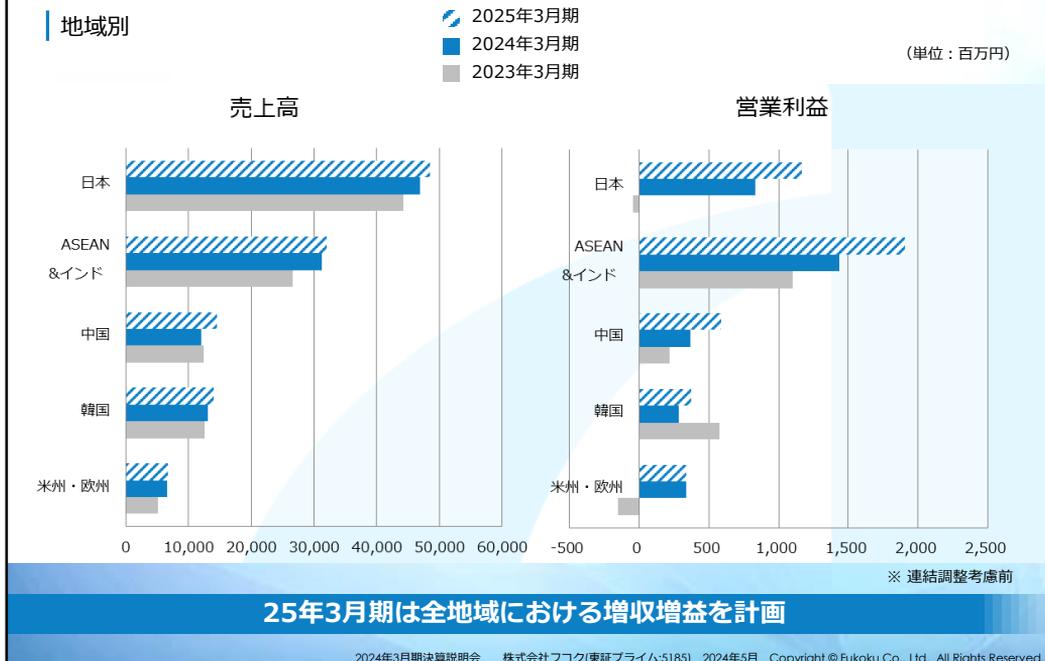
このグラフは、2023年3月期及び2024年3月期の実績、そして2025年3月期の計画が、推移としてわかるように表しています。上から順に、機能品・防振・ライフサイエンス・ホース・金属加工と、5つのセグメントで構成されています。なお、報告セグメントの変更に伴いまして、2023年3月期及び2024年3月期は、旧産業機器セグメントの組替後となっております。

ご覧の通り、2024年3月期は全てのセグメントにおいて営業増益となりました。

機能品事業につきましては、自動車メーカーの生産復調、合理化や売価反映等により、増収増益となりました。

防振事業につきましても、アセアン、インド、米国での需要増加、合理化や売価反映等により、増収増益となりました。
2025年3月期も、全てのセグメントでの黒字を実現してまいります。

4. セグメント別・地域別の状況



次は、地域別の状況です。セグメント状況と同様に年度ごとの推移で示しています。ご覧の通り、2024年3月期は、全地域において黒字化を実現いたしました。

日本では、2024年3月期は、原材料高騰の影響を売価反映や合理化、採算改善活動を進めたことで黒字化いたしました。当期も増収増益基調を継続してまいります。

次に、当社グループの重点地域であるアセアン・インド地域につきましては、メイン拠点であるタイ主力工場にて、歩留まり改善、不良低減等の変動費削減を主体とした合理化活動、生産能力の向上を進めること。また、需要が好調なインドではR&D機能を強化することで、更なる利益増を進めてまいります。

中国につきましては、2024年3月期は、中国経済の低迷や、中国市場における日系自動車メーカーの需要伸び悩みの影響を受けましたが、上海テクニカルセンターの機能向上、ローカルメーカーへの拡販を進めることで利益増を目指してまいります。

韓国につきましては、2024年3月期は、CASE対応向けの新製品の開発費用が増加いたしました。放熱ギャップフィラーが韓国、現代自動車向けで量産を開始すること等で利益増を進めてまいります。

米州・欧州につきましては、2023年3月期にチェコ閉鎖に伴う費用計上がありました。2024年3月期には米国における国内需要が好調に推移したほか、米州拠点の再編成によるグローバル最適地生産や合理化による採算改善努力を進めたことで増収増益となり、当期も継続してまいります。

これらのことから、2025年3月期は、全ての地域で増収増益を実現してまいります。

5. 株主還元



続きましてここからは、株主還元について、ご説明いたします。

5. 株主還元

株主還元の考え方（配当政策の基本方針）

- 連結配当性向30%を目安とした安定配当を継続
- 1株当たり年間20円を下限
※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

配当金について

1 株当たり配当金推移 (単位：円)



2024年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

配当政策につきましては、連結配当性向30%を目安に、安定配当を継続することを基本方針と考えております。

これに基づき2023年度の期末配当金は直近の配当予想から5円増配の32円50銭、中間配当金27円50銭と合わせた年間配当金は60円といたしました。

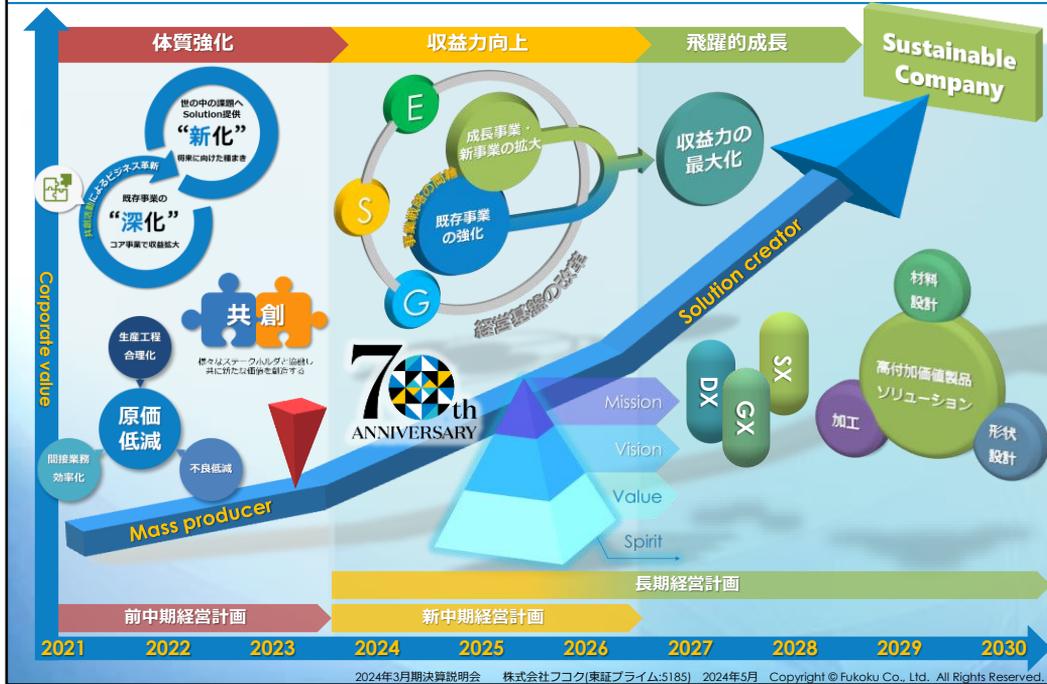
また、2024年度の年間配当金は、新中期経営計画の目標値通り、1株当たり75円を計画しております。

6. 中期経営計画の進捗



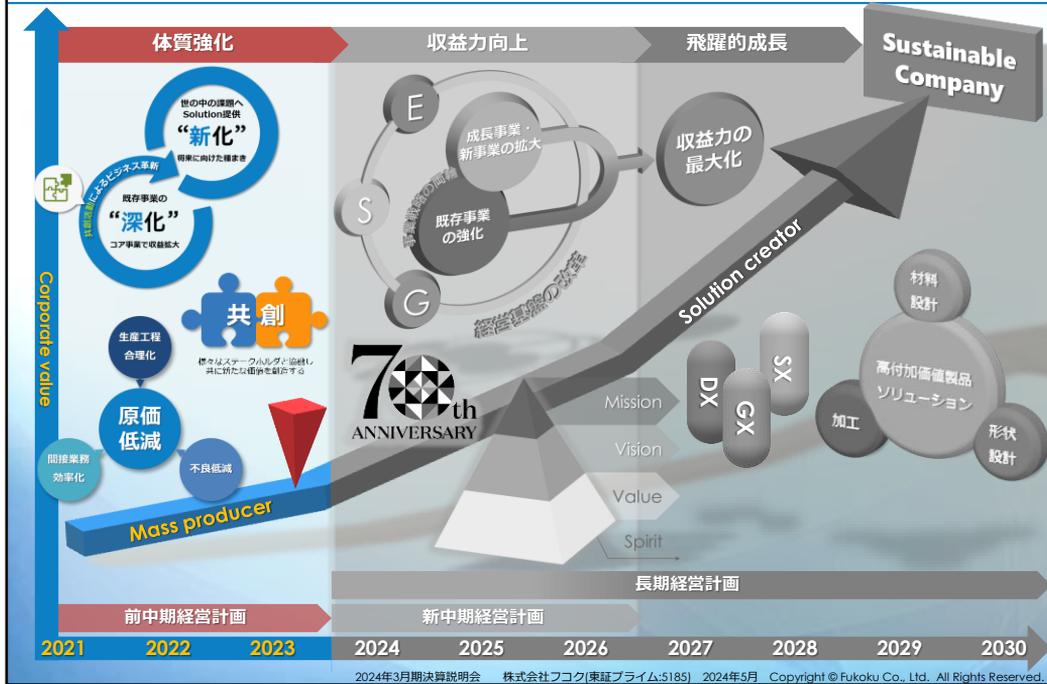
続きましてここからは、中期経営計画の進捗につきましてご説明いたします。

6. 新中期経営計画2026の全体像



こちらは、新中期経営計画2026の全体像です。

2022年3月期 - 2024年3月期
6. 前中期経営計画の振り返り



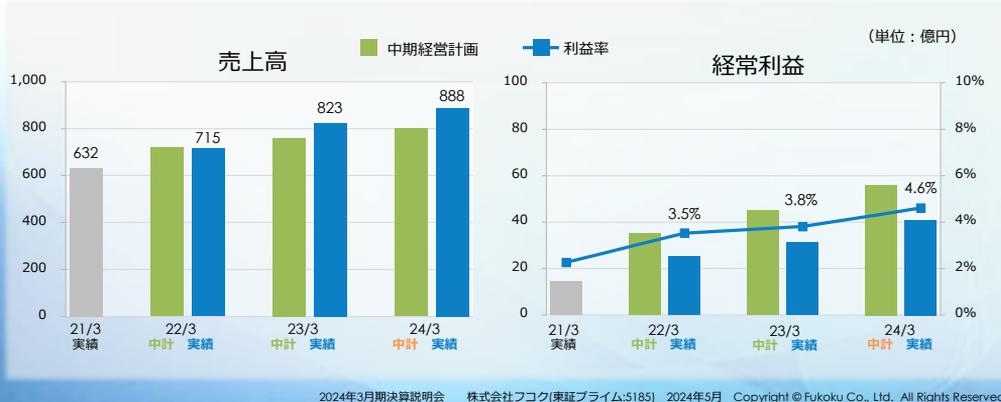
まずは、新中期経営計画をご説明するに先立ち、前中期経営計画の振り返りを行います。

前中期経営計画は、徹底した「原価低減活動」に加え、コア事業の収益拡大の「深化」と将来に向けた種まきの「新化」を中心に「体質強化」を目的として、2021年度から2023年度までの3か年を対象に策定されました。

2022年3月期 - 2024年3月期
6. 前中期経営計画の振り返り

売上高・利益（連結）

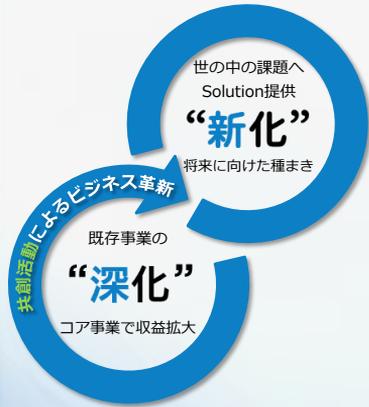
	目標値 (24年3月期)	実績値 (24年3月期)
連結売上高	800億円	888億円
経常利益率	7%	4.6%
ROE	8%	8.1%
連結配当性向	30%	31.7%



数値実績につきましては、前中期経営計画策定時に想定していた外部要因と比べまして、半導体不足に伴う車両減産や原材料価格高騰が収益面に影響を与えたことにより、経常利益率は目標には届きませんでした。

しかしながら、ご覧の様に2024年3月期までの3年間は右肩上がりの成長を続け、売上高、ROEは目標を達成いたしました。

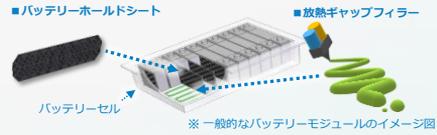
「深化」と「新化」全体像



達成状況

・ CASE 対応事業の拡大

- バッテリーホールドシートの拡販と新構造の開発
- バッテリーセルを効率的に冷却「放熱ギャップファイラー」の開発



・ ライフサイエンス事業の創出

- 液体培地と化粧品原料の用途開発と安全性を追求
- 薬剤耐性菌検査チップの量産体制確立、新商品開発と論文文化



・ ワイパー事業の強靱化

- シミュレーション技術を用いた設計と実車を用いた社内評価による開発期間大幅短縮
- タイ主力工場の生産能力増強



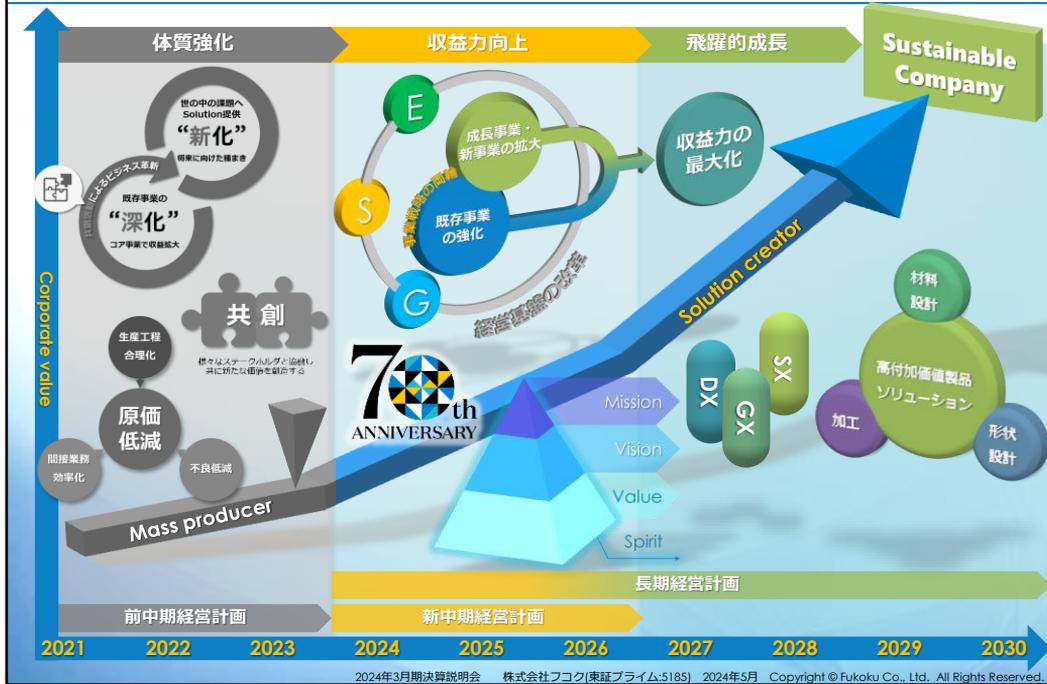
・ 海外事業の選択と集中

- 欧州拠点再編（チエコ拠点閉鎖）
- 米州拠点再編

前中期経営計画の数値目標を達成するために取り組んでまいりました課題につきましては、既存事業を深掘りし、更なる収益拡大をはかると同時に、将来に渡って世の中の課題にソリューションを提供するための種まきを行う、と言う2つの方策を、スピード感をもって取り組んでまいりました。

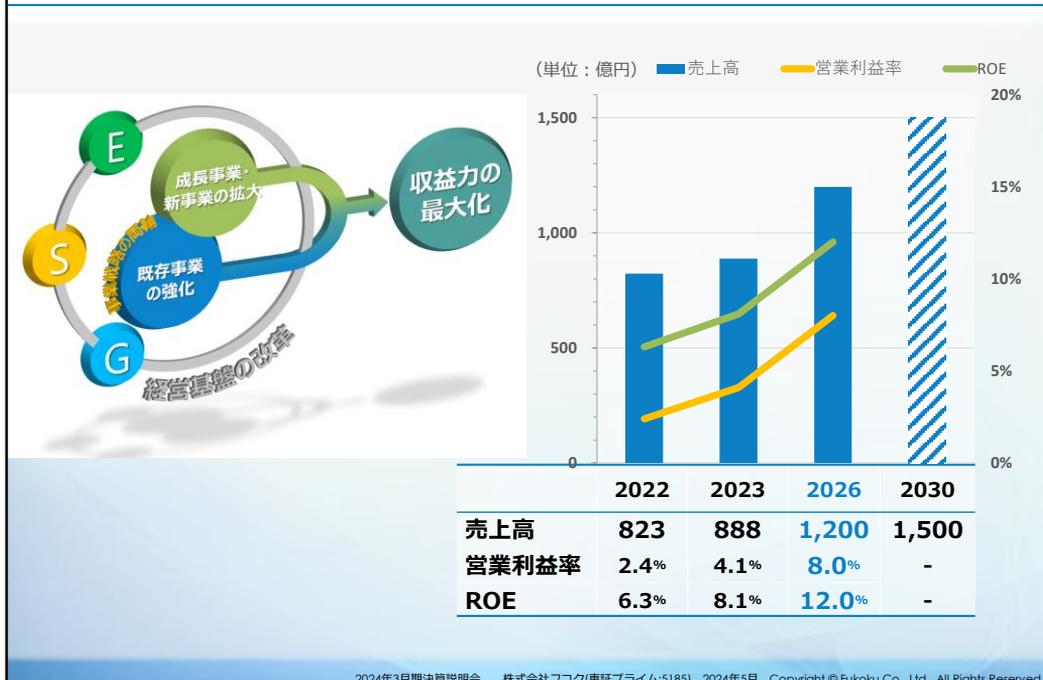
体質強化に注力し、その結果、土台作りは完了したと考えております。

6. 新中期経営計画2026の全体像



続きましてここからは、新中期経営計画2026の概要をご説明させていただきます。

6. 新中期経営計画2026 戦略スキーム



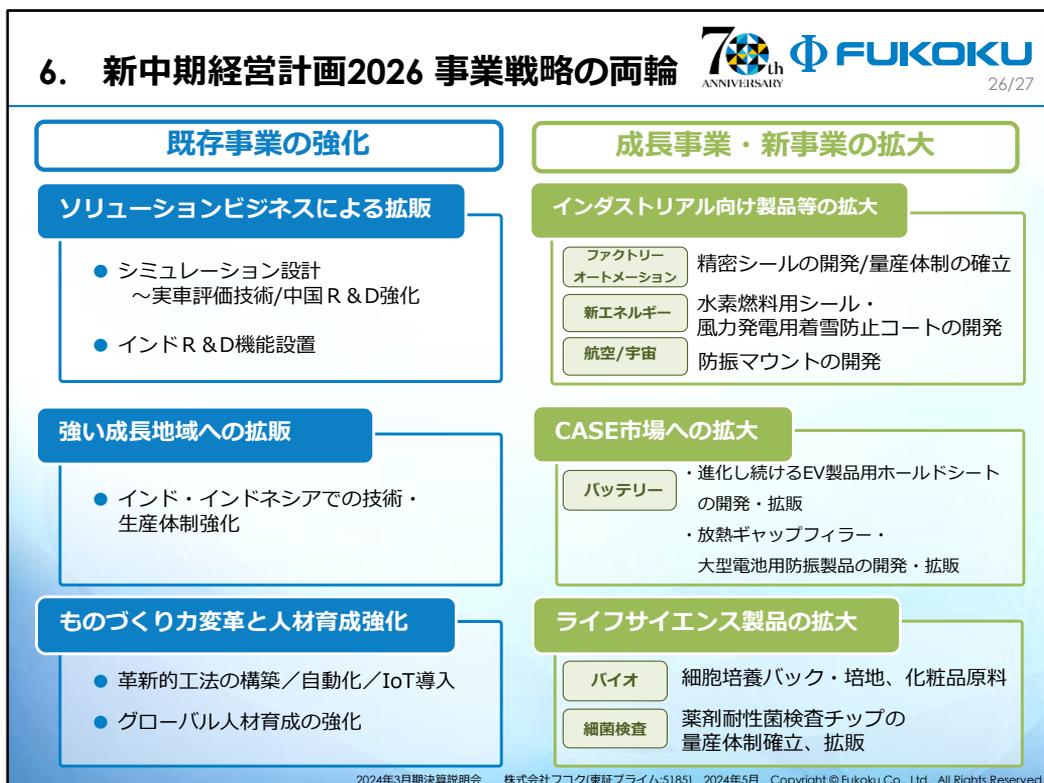
2024年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

新中期経営計画では「既存事業の強化」と「成長事業・新事業の拡大」の事業戦略の両輪に加え、ESGを主体とした経営基盤の改革に取り組むことによって「収益力の最大化」を狙います。

数値目標につきましては、ご覧のグラフに示しますように、2026年度に売上高1,200億円、営業利益率8%、ROE12%と設定いたしました。

長期的視点においては、2030年度に売上高1,500億円を目指します。

6. 新中期経営計画2026 事業戦略の両輪

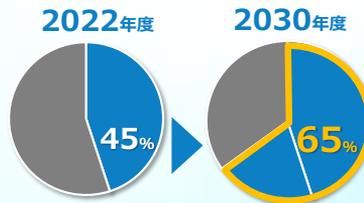


次に、先ほどの数値目標を達成するための方策をご説明させていただきます。

ご覧の様に、「既存事業の強化」につきましては、「ソリューションビジネスによる拡販」、「強い成長地域への拡販」、「ものづくり力変革と人材育成強化」の3つの方策を計画しております。

続きまして「成長事業・新事業の拡大」につきましては、今後、特に成長が見込める「インダストリアル向け製品等の拡大」、「CASE市場への拡大」、「ライフサイエンス製品の拡大」の3つの分野への積極的
事業拡大を計画しております。

ワイパー ラバー

技術開発
トータルソリューションOEM
グローバルシェア拡大タイ主力工場の
生産増強

グローバルNo.1の座をさらに盤石に

2024年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

ここからは、ソリューションビジネスの具体例として、フコクの主力製品のひとつであるワイパーに焦点を当てて、ご説明いたします。

フコクのワイパーラバーは、現在グローバルシェア45%の世界No.1主力製品です。今後、独自のシミュレーション技術と実車評価までのトータルな開発システムのグローバル展開を加速させること。また、アメリカや中国にてアフターマーケットを含めて拡販活動を実施していくことで、2026年にグローバルシェア55%、2030年には65%を目標としNo.1の座をさらに盤石なものとしします。

フコクのワイパーの歴史と取り組みについて動画にまとめましたのでご覧ください。



フコクは、常に挑戦を続け、時代の変化に柔軟に対応し、
“サステナブルな社会の実現に貢献できる” 心から愛される企業 “ を
目指します。

今後ともご指導、ご支援を賜わりますようよろしくお願い申し上げます。
以上で、終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。



70th **Yes, We Do!**
ANNIVERSARY

注意事項

- ◆ 本資料には、株式会社フコクおよびそのグループ会社の戦略、経営計画等の将来予測に関する記述を含んでいます。本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現時点において入手可能な情報に鑑み株式会社フコクおよびそのグループの仮定および判断に基づくものであり、その性質上、これらにはリスクや不確実性を内在しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。
- ◆ 本資料に記載されている将来予測に関する記述は、本資料作成日現時点のものであり、当社はそれ以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものに変更する義務を負うものではありません。

2024年5月22日 株式会社フコク

Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

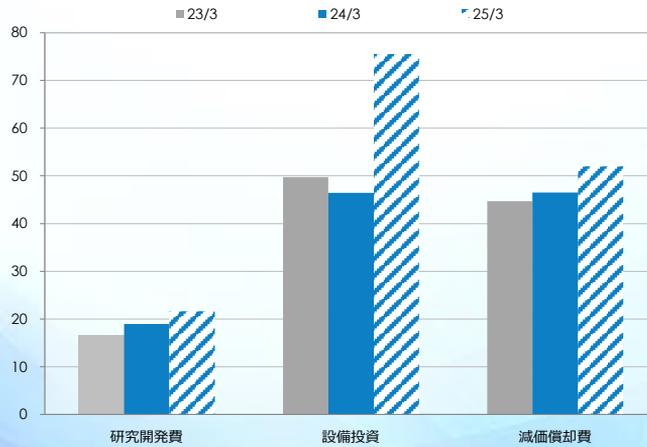
Appendix



1. 研究開発費、設備投資、減価償却費

研究開発費、設備投資、減価償却費

(単位：億円)



2. 会社概要

会社概要

 株式会社 **フコク**

事業概要	ゴム製品、金属・合成樹脂製品、 OA・電子機器・医療用具の製造販売 等
証券コード	東京証券取引所 プライム市場 (5185)
設立	1953年
本店	埼玉県上尾市
代表者	代表取締役社長 大城 郁男
従業員数	連結 4,594名、単体 1,157名 (※)
株主数	16,097人 (※)
拠点・ 関係会社	・ フコク単体：5工場、2事業所 ・ 関係会社 - 連結子会社：国内2社、海外14社 - 持分法適用会社：海外1社



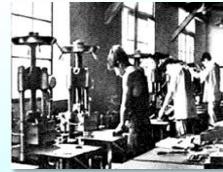
※ 2024年3月31日現在

2024年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

2. 会社概要

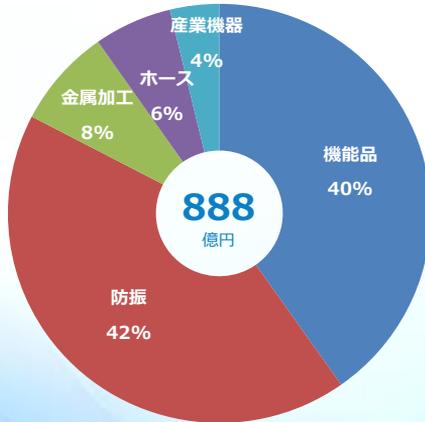
沿革

1953年	12月	創業者の河本 栄一が、 富国ゴム工業株式会社を設立
1956年	4月	ワイパーブレードラバーの技術開発に成功
1972年	9月	末吉工業株式会社に資本参加
1983年	1月	タイ国バンコク市に合併会社タイフコク株式会社設立
1986年	1月	株式会社フコクに商号変更
1994年	10月	日本証券業協会に株式を店頭登録
1996年	2月	株式会社東京ゴム製作所に資本参加
2004年	3月	東京証券取引所 市場第二部に上場
2005年	3月	東京証券取引所 市場第一部に上場
2020年	6月	経済産業省より『2020年版グローバルニッチトップ 企業100選』に当社が選定
2022年	4月	東京証券取引所 プライム市場へ移行
2023年	6月	大城 郁男が代表取締役社長に就任



2. 会社概要

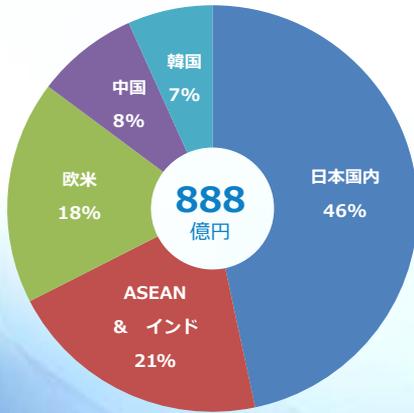
事業別売上 (2024年3月期 連結)



2. 会社概要

地域別売上（2024年3月期 連結）

グローバルネットワーク



 日本 1953年	 インドネシア 1997年	 インド 2010年
 タイ 1983年	 アメリカ 2001年	 ベトナム 2011年
 韓国 1987年	 中国 2001年	 メキシコ 2014年

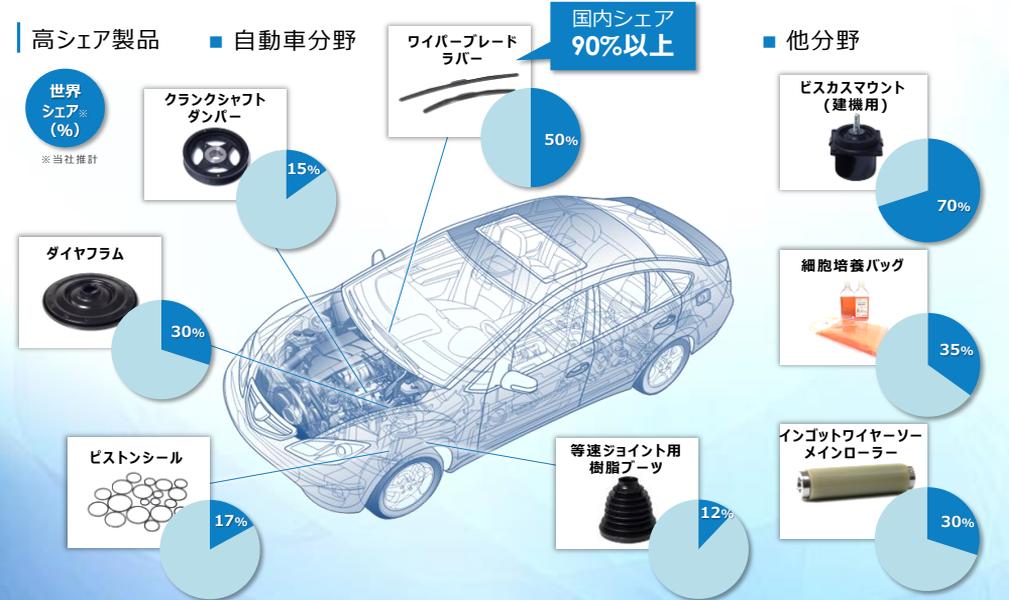
※顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております

2. 会社概要

当社の特徴：多種多様な製品を生産販売



2. 会社概要



ニッチな分野で高シェア製品を数多く輩出

2. 会社概要

表彰関連：グローバルニッチトップ企業100選
(2020年6月)

経済産業省より、国際市場開拓に取り組む企業のうち
ニッチ分野で高シェアを確保し良好な経営を
実践する企業として

「2020年版経済産業省

グローバルニッチトップ企業100選」に
選ばれました！

以下審査基準を基に、外部有識者で構成する選定評価委員会の審議を経て選定。

1. 世界シェアと利益の両立
2. 技術の独自性と自立性
3. サプライチェーン上の重要性

